

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール
＝学校運営協議会を置く学校

～地域学校協働活動と一体的な推進～

北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援係

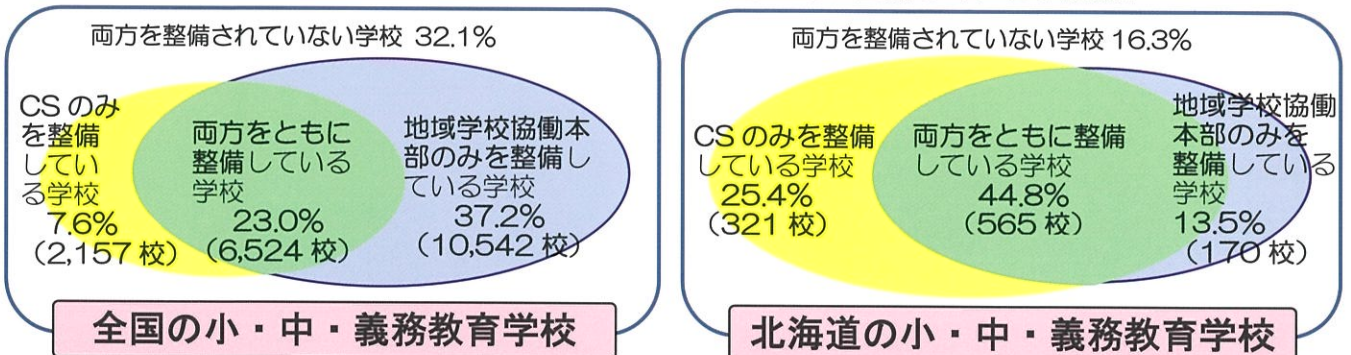
なぜ、地域学校協働活動との一体的な推進が求められるのか？

急激な社会の変化に伴い、学校と地域を取り巻く課題は、ますます複雑化、多様化しています。

このような状況の中、学校と地域が連携・協働し、子どもたちには、学校だけでは得られない知識・経験・能力など、これからの時代を生き抜く力を育成すること、地域住民には、自らの地域は、自らの手で創っていくという、「主体的な意識」への転換が求められており、学校と地域の関係者で目標やビジョンを共有し、地域創生に向かって一体的に取り組むことで「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現可能にすることを目指しています。

北海道におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の状況【小・中・義務教育学校】

【コミュニティ・スクール（CS）と地域学校協働本部をとともに整備している学校数】



地域と学校が協働で目標やビジョンを達成するためには、地域学校協働活動のコーディネーター役を担う人材を学校運営協議会に参画させることにより、地域と学校が共通理解を図ることが大切であるとされています。

【地域学校協働活動推進員等のうち、学校運営協議会委員である者の数】

	地域学校協働活動推進員等		
		そのうち学校運営協議会委員である者	
		人数	割合
全国	28,822	4,955	17.2%
北海道	730	245	33.6%

※令和2年7月1日現在【札幌市を除く】



北海道の地域学校協働活動推進員等で、学校運営協議会委員として活動している委員の割合は全国よりも16.4ポイント高い状況です。
コーディネーター役を担う人材の育成と活用が、活動の活性化にとって重要です。

本リーフレットでは、「地域コーディネーターが学校運営協議会と地域をつないだ」奥尻町と島牧村の事例、「コロナ禍において、学校と地域が連携・協働した」士別市と興部高等学校の事例、また、函館市による「コーディネーターの育成や資質向上の取組」について掲載しました。

各学校、各地域での実践に役立てていただければ幸いです。

地域コーディネーターに係る取組事例

「学校運営協議会が地域と目標を共有し、地域とともにある学校づくりを推進」

奥尻町

学校と地域が目標を共有し、地域学校協働活動を展開することで、地域全体で子どもたちを育てる気運が醸成され、地域や社会教育関係団体の活性化につながりました。

Point

- 地域コーディネーターが運営協議会に参加
 - ・学校の状況を把握し地域に伝達
 - ・学校へ地域学校協働活動に関わる情報を随時提供
- 地域コーディネーターが調整役
 - ・各学校の授業に地域人材をつなぐ
 - ・各学校の行事や環境整備などで地域人材と円滑に連携
- 地域コーディネーターが活動をつなぐ
 - ・「子どもたちのために」という地域住民の思いを地域学校協働活動で表現
 - ・「学校を核とした地域づくり」が一つ一つ確実に実現



【奥尻町の学校運営協議会と地域学校協働本部の体制】



【特産物のスルメイカを調理した食育の授業の様子】

地域コーディネーターに係る取組事例

「コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、地域ぐるみで教育活動を推進」

島牧村

学校運営協議会委員と地域住民が学校や地域の活動に関わることで学校と地域の距離が縮まり、地域全体で子どもたちや学校を見守ろうとする気運が醸成されました。

Point

- 学校運営協議会委員を社会教育委員が担う
 - ・教育委員会との連携が円滑に進む
 - ・社会教育団体との連携が円滑に進む
 - ・学校教育と社会教育との協働が円滑に進む
- 地域コーディネーターが活動をつなぐ
 - ・学校と地域の目標共有をコーディネート
 - ・過去の地震による被災体験を地域住民から聞き取り、地域防災マップを作成
 - ・地域ぐるみの防災教育に発展
 - ・コロナ禍で臨時休校の際、地域住民の有志が村内12箇所を回る移動図書を実現



【地域住民から北海道南西沖地震の被災体験を聴く生徒】



【コロナ禍において有志がワゴン車で移動図書を実施】

コロナ禍における取組事例

「コロナ禍における子どもたちの安全な学校生活に向けた学校運営協議会の取組」

士別市

取組の概要

コロナ禍であるからこそ学校と地域が情報を共有する必要があるとの認識から、学校運営協議会を開催し、子どもたちのためにできることを話し合い、地域住民と学校の役割を分担しながら、一体となって地域学校協働活動に取り組みました。

Point

- コロナ禍において、地域住民として学校の教育活動の充実に向けて何ができるのかアイデアを出し合うため、会場の消毒等を徹底し、体育館において学校運営協議会を開催
- コロナ禍でマスクが不足する中、学校運営協議会委員が公民館や地域住民と連携・協力してマスクを作成し、小学校と保育園に寄贈したことにより、地域住民が学校の安全な環境づくりに参画

コロナ禍であるからこそ、学校と地域が情報を共有し、学校運営協議会で話し合ったことを地域学校協働活動として取り組むなど連携・協働することが大切です。



【間隔を確保するために体育館で学校運営協議会を開催】



【学校運営協議会委員が地域住民に呼びかけマスク作り】

コロナ禍における取組事例

「道立高等学校が地域と連携し、コロナ感染予防を啓発した取組」

興部高等学校

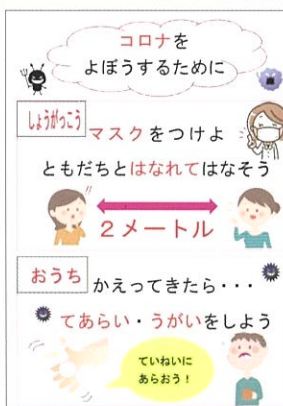
取組の概要

興部高等学校では、コミュニケーション能力の向上を目標に掲げ、学校運営協議会では生徒と地域住民が関わる機会を設定しています。コロナ禍にあっても、地域の関係機関との連携を円滑に進めることが出来ました。

Point

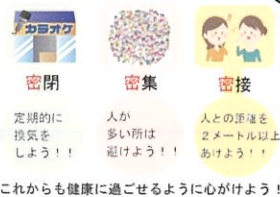
- コロナ禍において、授業で生徒が地域住民に新型コロナウイルス感染症予防を呼びかけるポスターを作成
- 学校運営協議会では、生徒が作成したポスターを町内の施設に配付する方策について協議し、地域コーディネーターが地域の関係機関と連携を図り、ポスターの配付が実現
- ポスターを配付する際に、生徒が施設職員にポスター作成の目的や意図を説明したり、施設職員の意見を聞いたりすることにより、生徒のコミュニケーション能力が向上

コロナ禍においても、地域や関係機関と円滑に、効果的に連携を図るためコミュニティ・スクールの仕組みを日常的に活用することが大切です。



新型コロナウイルス感染予防対策

避けなければいけない3密

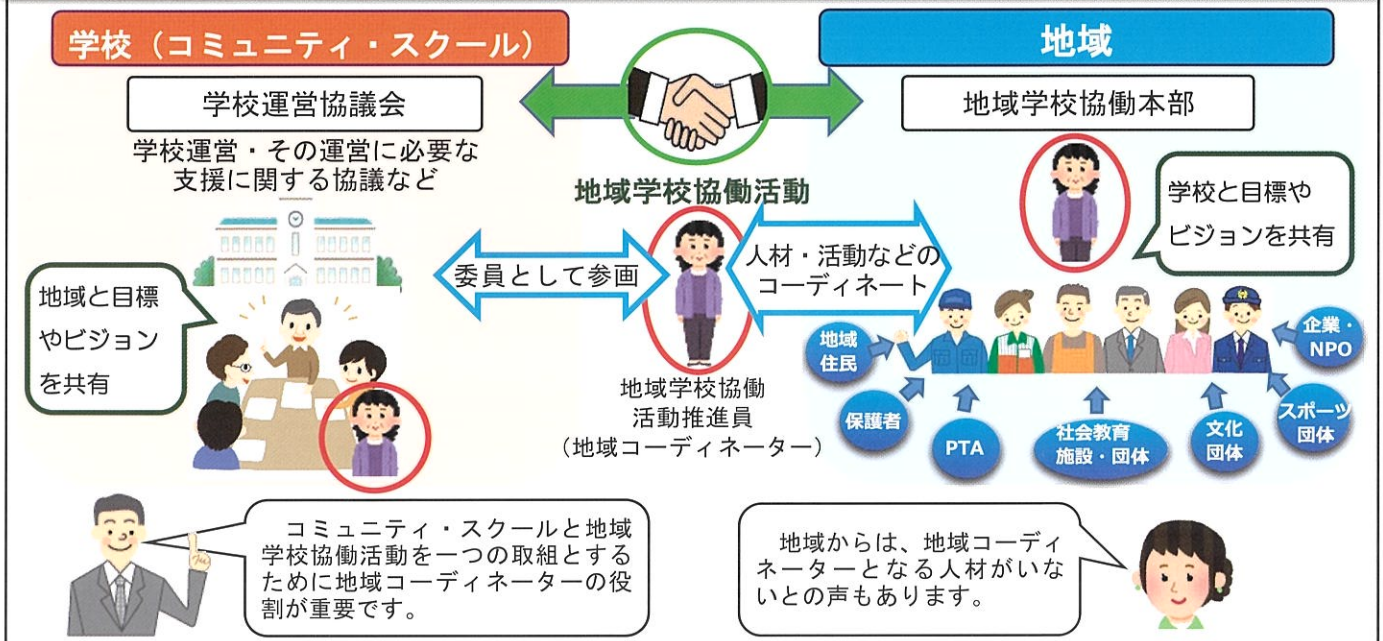


生徒が授業で作成したポスター



【高校生が地域の学校や施設にポスターを配付】

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として



一体的推進に係る取組事例

「教育委員会が主体となって地域コーディネーターの実践交流を行う取組」

函館市

取組の概要

函館市では、全ての市立幼・小・中・高等学校にコミュニティ・スクールを導入し、市内14校に地域コーディネーターを配置するほか、活動における実践交流を行う場として、「地域学校協働活動連絡会議」を定期的開催しています。

Point

- 教育委員会が、地域学校協働活動の推進に関し必要な検討を行うことを目的として、「地域学校協働活動連絡会議」を設置
- 「地域学校協働活動連絡会議」では、地域学校協働活動とはどのようなものか、地域コーディネーターの役割・人材発掘などについて説明・協議

地域コーディネーターの育成や資質向上を図ることにより、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現を目指す事が大切です。



【地域学校協働活動連絡会議の様子】

コーディネーターは育てるもの

- ▶ 完璧なスキルを有している人はいない
最初から理想の人はいないので、地域から発掘して育てるのが基本
- ▶ コーディネーターに適した資質は？
明るく、コミュニケーション力が高く、フットワークが軽い方が望ましい

【講師の配付資料から】

【コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動に関する情報】

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課地域学校協働活動推進室

・コミュニティ・スクール Facebook

<https://www.facebook.com/community.school.mext/>

・「学校と地域でつくる学びの未来」 <https://manabi-mirai.mext.go.jp/>



CS

地域とともにある学校づくりのために



北海道教育庁学校教育局

・義務教育課子ども地域支援係 <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kcs/index2.htm>